

きたかみ景観人養成講座(2回目)

2009年12月13日(日) 9:30~12:00

会場: さくらホール 大アトリエ

参加者: 43名

I. 開会

II. 修景実験助成団体 活動報告

今回の景観人養成講座は、第1回を受講した北上市の景観まちづくり修景実験助成事業の活動報告を行い、それぞれの地域の景観まちづくり事業の事例研究を行いました。

○横川目4区自治会

こちらの方が修景前の写真となっております。横川目4区は尻平川の堤防の景観づくりというところを一番の目的として実施されました。

大体距離にして2キロぐらいのエリアをやろうということで、一番最初はこのようなブッシュの部分で、道が隠れていたという状況になっています。



活動中の写真がこのような状況ですね。これを少しでも道が見えるようにして、将来的には山とかもきれいに見えるようにしたいなということで、11月の22日に80の方が参加いたしまして、伐採をして少しは見えるようになってきたよというところで、これ途中経過なんですけれども、このような形で今活動の方をされています。

今後は、まずは今回道沿いをやられたということなんですけれども、そこからさらに広げて、やっぱり尻平川のところも非常に雑木が多くて、昔の遊んだ風景がないということなので、そのあたりをもう少し活かしていきたいなというところ

をおっしゃってございました。



○特定非営利活動法人芸術工房

私どもの今回の事業についてなんですが、「光のオブジェによる文化の街並みづくり」ということで実験事業でございます。

場所はどこかといいますと、さくらホールの入り口付近を対象にいたしまして、そちらに「光のオブジェ」を制作し、入り口のところをちょっとわかりやすくしたということです。



こちらがその場所なんです、さくらホールの入口はこっちにあるんですけども、こっちが黒沢川になっております。ちょっとこんもりとなっています。ここにオブジェを作ろうという事業計画でございます。

その制作に携わるのは、学校の美術部の学生さんをお願いをいたしまして、ここにそれぞれオ

オブジェを作ってみたらという風に提唱いたしました。期間は11月初旬から12月末までという検討をする計画でございました。もし良ければこのまま延長をしようかということで取り組んでまいりました。



今、制作段階です。というのは、急遽予定しておりました美術部の学生さんが新型インフルエンザにかかりまして、学校閉鎖となりまして、計画していたものが白紙状態になりまして、じゃあ何を作ろうかということで、急遽私のほうで考えた制作を、オブジェに取り組んでいるところです。

今回の計画は一回で終わらせるつもりはございませんで、黒沢川沿いに、詩歌の森公園という、黒沢川沿いに6メートルほどずっと空き地がありまして、そこが都市計画になっております。

その先は、詩歌文学館といって詩歌の森公園がございます。そちらまで続けようという計画がありまして、私どももそちらのほうをにらんで、一緒に「光のオブジェ」とか芸術家の発表する場所を設けられればいいなど。

その段階として電源工事が必要となりますので、今回その電源工事も対象に入れさせていただきました。



これが完成したオブジェでございます。こちらが前から取り組んでいる「光のオブジェ」といってまして、イルミネーション事業で、今実際に夜点

灯しております。



今回制作したのがこのオブジェです。今までの色は、ブルーホワイトを主体としておりましたけれども、今回はホワイトとピンクを主体としております。この形、さくらホールシンボルマークです。立体的に作っているんですが、丸い形、ちょっと輪っかになっています。2面作りしました。角度によっては、桜の花となったりしていますが、これを今回のオブジェとして制作をいたしました。



どのように結果が得られたかといいますと、いまここに4人しか写っていないんですが、急遽だったものですから、1時間とか2時間とか、協力できる方が入れ替わって、最後に残った方が4人で写っているんですが、全部で12人の方に携わって完成させております。この後に入り口の付近にできたものですから、皆さんの興味と、また入り口にあたるものですから、歩いている方々が「あ、ここで写真を撮ろう」とか、そういった効果的なものが今出てきております。これは良かったのかなという風に思っております。

(北原先生からのコメント)

今おっしゃったとおり、こういうのってクリスマス頃とかに色んな所でやろうとするので、今おっしゃったようにどうやって続けていくとか継続っていうのはすごく大事だと思います。現時点での計画はありますか。

芸術工房

計画ですか？これからですね、また関連しているものがありまして、イルミネーションのオープンの時に、まだやっていない計画道路に「夢あかり」といいまして、樺山遺跡の関係者の方から「夢あかり」の小さなオブジェがいっぱいあるんですが、そちらをまず玄関ホールのところずっと並べまして、川沿いにろうそくをペットボトルに入れて、ずっと100何十メートルと、そういう実験をしております。

そういうことをすることによって皆さんの興味をひいて、伸ばしていくように、そして皆さんに興味をもっていただけるように今やっています。

(北原先生からのコメント)

さっきおっしゃった12人というのはどんな方なんですか？

芸術工房

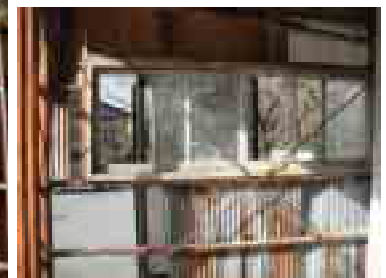
私ども芸術工房の方が今4人なんですが、それからあと一般の方、あと知っている方とか、1時間でもいいから手伝ってくれということで、携わっていただきました。

(北原先生からのコメント)

そういう方が巻き込まれて増えていくというのが楽しみですよね。

○立花自治振興協議会

立花の展勝地に入る珊瑚橋のたもとにあるバス停留所ですね、待合所が、昭和45年の国体時に建てられたもので、だいぶみすばらしく、見苦しくなっておりまして、これを改修して何かの役に立てたいということで、助成事業を活用させていただくことにしました。



だいぶ錆が入って屋根にも穴があいております。12月の10日、11日と計画しまして、男性の皆さんには解体作業を行っていただきました。



これは女性なんですが、男性が解体してくださ

った後をお掃除しようということで、ほこりも40年ぶりのお掃除で、中の方の鉄骨にもだいぶほこりがたまっていました、ものすごい量でした。マスク等をしながら作業をしています。



きれいになりましたということで、今私どもは中間報告になります。これから20日までに、廃材、それから地元の建設業者さんの協力、それから図面などを書いていただきまして、屋根とかはプロにやっていただきまして、あとは地元の地区民で、ボランティアで、外壁等を作るという風な結果が出ております。

将来なんですけれども、これを利用しまして、実は青森の方に視察等行いまして、大体展勝地にふさわしい、このような茶屋の景色というんでしょうか、大変青森に行った時に素晴らしい休憩所がございましたので、写真撮ってきました、このようなイメージで、20万という助成事業なので、ここまではいかないと思うんですが、似せたものを作りたいと思っています。

桜まつりの期間中とか諸行事の際に、こちらでお休み処として観光客の皆さんに提供したいなと思っています。その時には立花茶屋の女性の力になります、地場製品の販売等もしたいと思っていますので、どうぞ学生の皆さんも展勝地の桜まつり等においでの際はお寄りいただきたいと思います。

(北原先生からのコメント)

今、途中段階なんで、どんな風になっていくかという期待感、という感想なんですけれども、見ていると、男性と女性の役割分担がしっかりしていたんで、すごい活動だなと見ていました。

こういうのっていつ完成するという言い方よりも、おそらく最初こんな感じで作ってみようと

いうことから、途中、いろんなものを見たりしながら、少しずつ最終形がどんどん進化していくような形がおもしろいのかなと思っています。

古くなったら直そうではなく、今年はこんな感じにつくってみようとか少しずつやっていくとか、バス停留所や電話ボックス等についても、N T Tにかけあうなど、気がついたら全部を取り込んでしまうような景観づくりが皆さんには向いているという気がしますので、ぜひ頑張っていってほしいと思います。

中で何かを売るという発想も面白いと思います。売っている姿がいい景観だと思いますので、ぜひやってください。よろしくお願いします。

○長沼一区・二区自治会

今回、長沼地区内の景観づくりということで、5つの場所で活動を行いました。



和賀川河川敷、和賀中央橋の西側ですが、樹齢50年以上の松の木が約60本位生えています。私が子供の頃は、和賀川の河川敷で水遊びができる環境でしたし、松林ですから秋にはキノコが生えてくるような環境でしたが、最近では地域の人も地権者も手をかけていません。

実際には河川敷ですから、国交省が管理しているのですが、江釣子から東は運行公園やゴルフ場が整備されていますが、和賀中央橋以西は全く手が付けられていないので、この環境を昔に戻そうという発想でやりました。

12月1、2日、地域のメンバー25人が出ました。実際にやったのは、草刈り機等を使い、雑草の刈り取りを行いました。刈り取ったものについては、振興局の土木に許可をいただき、中で焼却しました。松林がある面積が約2000㎡あるの

ですが、この2日間だったので今回出来たのがおよそ1/3です。来年に向けてどうするかを今後協議するところです。松林全体を環境整備していきたいと思っています。

2番目が和賀東中学校の校門東側の花壇、長さが100mあり、この花壇の西側のほうには長沼古墳があります。その両方について花を植えました。サルビアやマリーゴールドを6月に植えて、毎年、植えていまして秋には枯れるんですが、今年の春までは鉄道の枕木で作っていたのですが、老朽化して土止めがきかず、土や肥料をやっても流れ出してしまってこんなにきれいに咲かなかったのですが、たまたま今年、こういうかたちで作り変え、土を入れ替え、牛ふん等を中心にした肥料をやったことで、秋になっても、十分眺められる状態です。



実際の作業は地域の住民13人でやりました。この花を全部撤去して、土を掘り返し、肥料をあげ、パンジーとチューリップの球根を植えました。パンジーは雪の下でも十分、生育しますし、チューリップは4月中旬には咲き出します。ですから、1年間花が絶えないような状態にできるだろうという期待を持っています。先ほどの花壇は北上市の花いっぱいコンクールで優良賞をいただいています。中学校の敷地の中に長沼古墳があるのですが、この古墳の周りにも同じようにパンジーとチューリップを植えました。

それから、別の場所ではあじさいを植栽しました。水路と水路の間にあじさいを植えられるような場所があり、距離にして約1kmあります。そのなかで今年は300m、あじさいを100本、3m間隔で植栽しました。これは12月14日、地域の人た

ちで作業を行いました。長沼1区の公民館、長沼の公園にも同じように植栽しました。公園は12月12、13日に総勢14人で作業を行いました。



(北原先生からのコメント)

今のお話を聞いてわかるとおり、本当に多面的で様々な活動を皆さんでやっていらっしゃる、イベントでやっているのではなく、本当に地道に伐採や植栽をやっているのも、その活動自体がすごいと思います。

こういうことは地域の人たちが自分達の景観をじっくりと育てていこうという気持ちがないと続かないので、そういうかたちで進められているということなので、何もコメントしなくてもいいくらいやっていらっしゃると思います。

ただ、さっきの学校を見ていると、学校の通学路に地域の人たちがああやってお花を植えて子どもたちのために少しでもいい通学路を作ろうという思いでやっていらっしゃるんだろうと思う反面、うまく学校の授業とからめば、ああいうことは本当は生徒達がやらなきゃいけないのになという気持ちもちょっとしました。

地域の人たちがこういう環境を育てながら、子供達を育てている、景観を育てながら子どもたち

や孫たちを育てているといういい活動だなと思いました。

○岩崎城内会

私たちは夏油川の環境整備を行おうかということで、先ほどのお話でもありましたが、自分達が育つ頃はこの川に行けば中州があり、そこで芋を煮たり、いろいろなことをして遊んだ記憶がありますが、今はこのような状態なので、昔の川を取り戻すという発想からこの事業に取り組みました。



作業は、城内会の会員と地域住民総勢 23 人で、5 日間の実施で 100 人前後でみんなでやったということになります。伐採したものを燃やしたんですが、振興局と消防に届を出すのが知らなかったために遅れまして、事後承認でやりました。



作業後は川が見えるようになりました。こういう環境を今後どのように保っていくかが、大変な苦労だと思うんですが、江釣子の和賀川ふれあい広場のように、グランドゴルフ場が設置できればいいと思いますが、なかなか資金もないので、そこまでは夢だと思っています。ですから、刈り払

いをしながら川を見られる、そういう継続しかないのかなという思いでいます。先生からのアドバイスをいただきたいと思っています。



今回の事業で、粗大ゴミが川からかなり出てきたんですが、この処分が地元負担だということで、処分場に持っていければ本当はいいのですが、実際はお金を出して処分ということになるようです。



今回の事業を通じて、城内会は若い団体なのですが、何かアクションしてほしいと思っているようなんですね。率先して、部落 43 軒のうち、半分以上の方が出てくれましたので、それらを待っているのかなと思いました。課題は、手続き上の

問題を知らなかったもので、こういう手続きがあるんですよというフォローがあれば良かったと思います。

（北原先生からのコメント）

景観整備の一つの動機づけとして、30年前はこういう景色が見れたのになあとか子どもの頃、向こうが見えたのになあ、とかそういう景観を復活させるためにやっていく作業がありますし、もう一つ今、お話を聞いていて思ったのが、前、あっちの方に行って、こんな楽しいことをしたのになと、そういう行為をまたできるようにと環境整備していくというのが一番わかりやすいと思います。

そういうかたちでやっていらっしゃるから、グランドゴルフやレクリエーションの空間を作ろうか、でもお金がなあという話をしていらっしゃいましたが、この活動が、自分達が小さい頃、それが出来た環境をもう一回取り戻して、今度は自分の子どもや孫たちとそういうこと、派手なレクリエーションじゃなくてもいいから、川を見ながらお弁当を食べるというようなことができていくということが、市民が自分達でつくっていく景観整備で、一番、身の丈に合っているのではないかなという気がします。

もちろん、そのときに出てきたゴミを自分達のお金で処分しろというのはきついものがありますけれど、何回か言っていれば市役所が考えてくれるような気がします。

これがどんどん人の手が入って、運動公園になるよりも、今のこの状況で「お父さんが小さい頃、向こうに行ってみんなで遊んでいたんだよ」というようなことを今の子供達にわかるような景観の継承、見え方だけではなく、やったことを復活できるようなことをやっていらっしゃるのは、僕はいいなと思います。

岩崎城内会

ここにはサケが溯上してきますので、ここを見せたかったというのがあります。

参加者

今のゴミの話ですが、クリーン活動をやったということであれば、北上市は無料で引き取ってくれるので、大丈夫ですよ。

事務局

その辺りは、このような時はこういう手続きや方法があるということをもとめ、後ほど皆さんにご案内させていただきたいと思います。

○口内町自治協議会

○特定非営利活動法人くちない

口内町自治協議会で取り組んだのは、大学生との連携によるまちづくりということで、岩手大学の田中先生とゼミ生10人来てもらい、「昔の思い出遠足」ということで、昔の古い写真とそれをもとにして現地を歩いて、どのように変わったか、あるいは変わらなかったか、それぞれ学生さんたちが一緒に歩いて、コメントをいただきました。



我々が普段見ているものが、外から来た学生さんたちから見ると、風景がレトロに見えとか、そういう感想をいただきました。我々は汚いとか古いとか今にも壊れそうだと言うような建物や物が、これは昔の貴重な建物だというような印象だという感想をいただきました。



浮牛城跡は昔、武家屋敷があったんですが、今

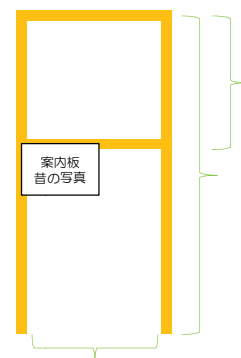
はまちなみが変わっています。昔の写真と比べて懐かしいなとかそれに浸って終わりというわけではなく、こういう環境だったものが今、このように変わってきたということをまずみんなに認識してもらうことが第一だと思いました。



学校では、昔は草が生え、草むしりも我々がやったのですが、今は環境が良くなって、子供達が草取りをするような状況にはありません。



それから、NPO法人くちないのほうでは、行政区が9つあるのですが、各区から2つずつ場所のいいところを選定してもらい、そこに額縁のようなものを建て、眺めてもらおうと思っています。



それはなぜかというと、立つ場所によって全然風景は違ってきますので、ここから眺めればいい景色だよということをわかってもらうために、こういう看板をつくって20か所位に設置しよう

と思っています。これは今作成中です。ここには古い写真があるものは古い写真も入れて、比べてもらったり、もし環境が良くないとすれば、修景していこうという考えで取り組んでまいりました。

これをもとにして、口内だけのマップ作りをし、訪れる方や町民は勿論、町民の中でも、東と西では分からない個所があるので、マップで皆さんに知っていただきたいと思います。

（北原先生からのコメント）

景観に関する活動にはいろいろなステップがあって、今までのものは動かす、植える、お掃除するというような活動でしたが、この活動でおもしろいと思ったのが、地域の人が自分達の景観について何かを考え、もういっぺん自分達の地域の景観資源を再発見しようという活動を口内町自治協議会、NPO法人くちない、それぞれでおもしろい手法でやっていらっしゃるなというのが最初の感想です。

特に口内町自治協議会は、よく昔の写真を持っていたらっしゃったと思いますが、昔は家族の写真は撮りますが、街並みの写真は今でこそ撮りますが。ああいう写真と今を見比べながら、ご自身おっしゃっていましたが、昔に浸るわけではなく、こうだったものがこうなったと皆で共通理解で見ていくことからスタートする景観活動というのはすごく説得力があると思いました。

それから、地域に住んでいると毎日その景色を見ているので、少しずつ変わっていることに気付かないので、こういう写真を定期的に見ていくと、そしてこれからも地域の方が意識しながら5年、10年にいっぺん、同じ角度で撮りながら、地域を見ていくという活動を口内の行事にしていくと、次の50年後、100年後の地域の人たちにとってすごくいい財産になると思います。

それから、岩手大学の学生さんですが、僕もうちの大学の学生によく言うのですが、外から来る人を風の人と言って、地域の人たちを土の人と言います。

土の人たちはいいものに対しては段々慣れっこになってくるとわからなくなってきた、土埃がたまっていきます。それから、見せたくないものは土埃をいいことに隠してしまいます。

しかし、風の人が外から来ると、その風が吹くことによって土が飛んで、隠していたものが見えてきたり、自分達が気付かなかったいいものに気付いたりさせてくれます。

ですから、外から来た人たちと一緒にやると自分達の地域の資源を再発見するいい機会になります。こういうかたちから新しい計画が出てくるなという感じがしました。

それから、NPO法人くちないのほうはすごいなと思いました。この発想はプロのカメラマンが写真を撮る前に構図を決めるのですが、それをこういうかたちでやりながら、一番大事な残したい風景をとっていくために、どこかの地域の原っぱにこれがポンと立っていたら不思議な景観だなという気がしますが、でもそういうことをやりながら自分達の定点観測のようなそういう写真を撮っていき、両方組み合わせるとおもしろいなと思うし、先ほどのイラストでは額縁にカーテンが付いていましたが、見せたくない景観の所ではカーテンを付けておけばいいと思いますが、こういうのが実際立っていたらおもしろいかなと思います。

こういうのはおもしろいアイディアで広がっていけないかなという期待感があります。実際、どのような活動になっていくかを期待したいし、この活動とさっきの活動を重ねていくこともできそうな感じがするので、ぜひやっていただきたいと思います。

○二子町振興協議会

北上市の北部、東部はバスが赤字路線ということで、県交通から撤退され、しばらく走っていませんでした。その後、地域で陳情し、今はコミュニティバスが走っています。あちこち、バス停留所があるのですが、うちの交流センターの後ろにもあります。

バス会社が置いてあるいたんですが、交流センターの後ろであるものですから、太陽があたらず寒々しています。そこにおじいちゃん、おばあちゃんが来てバスを待っています。5、10分早く来て待っています。それを見て、ちょっとさみしいなと思いました。昔のバス停は店の前にあったり、けっこう人がたむろしていたよなということ

で、バス待合所が欲しいと思っていました。



たまたま、交流センターの横の道路が拡張されることになり、歩道スペースができたため、交流センター脇に待合所を作ろうと企画しました。まだ、道路工事中なので建物も建っていないのですが、木目風にして屋根もつけたいと思っています。



ここでおじいちゃん、おばあちゃんの笑い声が聞こえてくればいいなと思っています。また、掲示板をつけて、子供達の絵とか情報などを張り付ければ、バスが来ない日もおじいちゃん、おばあちゃんが手押し車を押しながら、散策のコースに入れていただければという期待で進めています。

（北原先生からのコメント）

おととい、黒岩小学校で景観の授業をしたときに、子供達が出してくれた写真のタイトルに「かわいそうな景観」というのがありました。

先ほど、見せていただいた写真で、交流センターの裏側で日の当たらないところで、お年寄りがいつ来るか分からないバスを待っている景色は、まさにかわいそうな景観だと思います。

それを自分達で、なんとなく暖まる景観に変えていきたいという活動は地域にとって必要だと

思います。ぜひ、出来上がったら見てみたいという気がします。

ちょっと問題があるのは、風が冷たいので、頑丈に作ってしまうとそれ自体が景観を阻害してしまう可能性もあるから、イラストでもシースルーな表現でされていますが、この地域であれば、あのシースルーな部分は何もない素通しではなくて、しっかりとしたパネルかプラスチックのような透明なものでないと、またかわいそうな景観になりそうな気がします。

そういった居心地の良さを考えた景観、中で待っている人たちが笑っている顔でないと、寒々しい景観になる可能性があるのも、いろんな仕掛け、お孫さんの絵を貼るとかそういうことで、この景観がもっとあったかい景観になっていくような行為は、最初にものを作っただけではなくて、その後の皆さんのいろんな工夫の仕方だと思うので、完成したら終わりではなく、完成した後に1か月に1つずつ誰かおじいちゃんの作った俳句を貼ろうとかそういうことをやることによって、バスを待っていないけれどそれを見にくるというようなかたちで、市民の活動とつなげていくと、楽しい景観に変わってくると思います。

ぜひ、完成した後に頑張っていただきたいと思っています。宜しくお願いします。

○稲瀬町自治協議会

私たちは「桜並木を未来につなぐ」稲瀬景観づくり事業ということで始めました。



展勝地のレストハウスから県道沿いにずっと桜並木が続いていますが、これを何とかしたいということで18年から景観調査を行い、徐々に取り組んでまいりました。県道沿いにはところどころ

ろ桜の木があるのですが、くるみの木が覆いかぶさってしまって、桜が枯れ死ぬ寸前のものがだいぶあります。



それを何とかしたいという気持ちがありました。作業は 11 名の参加で行われました。今は作業途中で、これから、我々では処分しきれないような木については、森林組合さんをお願いをして伐採をしていただく予定です。今はまだ作業中ですが、だいぶ、歩道から北上川・和賀川の合流付近が見えるようになりました。



補足ですが、稲瀬さんは立花さんと合同で展勝地から男山までのエリアをやられていて、さらに

この事業で男山から稲瀬方面を進められたということです。

（北原先生からのコメント）

「桜並木を未来につなぐ」というタイトルがすごくいいなと思います。今我々が景観を楽しみたいということだけではなく、それを 10 年後、15 年後、20 年後の人達がそんな感じでずっと感じられることにつなげるための活動で、それをやっていращやることはすごくいいなと思いました。

もう一つは、大事にしたいからこそ、雑木等を整理して行って修景していくのは、ただやみくもに緑の保護なんて言っている人たちには分からないのだと思います。

地域で本当に緑と向き合っているからこそ、ちゃんと間引いたりして、自分達の一番いいものを見せるということがわかるのであって、外で「環境整備で木を切りました」なんて言うとうわらない人もいるかもしれないけれど、緑の豊かさをわかっている人たちだからこそ、できることだと思います。こういう活動がだんだん広げられて、結果が見えてくると素晴らしいと思いますし、春になったら見てみたいと思います。

稲瀬町自治協議会

実際、この修景作業をやった際、桜の木が枯れているのが何本かありました。くるみで覆われてしまったためです。

（北原先生からのコメント）

そういった見目が大事です。リアルな環境活動だなあというのが僕の印象です。ぜひ頑張って続けて下さい。

○黒岩宿公民館

黒岩の、位置的には展勝地から北に 4 km ほどの所、北上川沿いには自転車道がずっと続いているのですが、もともと宿地域は対岸の二子川端と舟で行き来した地域です。昭和 47 年、上流の方に北上中央橋という橋が出来たので、渡しはなくなりました。昭和 30 年ぐらいまではこの場所では水泳などもしたい場所だったので、そこを整備しようということで 10 年ほど前から草刈りなどをしていましたが、なかなか大きな事業はできて

いませんでした。



この事業をもって、草刈りや生活排水の処理等の作業、長さ的には 500mあるかないかですが、今後の課題としては定期的にこういう事業をやるほかに、ちょっと上の方にお滝さんという水車をやっている地域があり、私たちの地域と隣り合っているなので、その間にちょっと木が生えそろうって人が入れない状況なので、ブッシュの伐採を含め、環境整備をやっていきたいと思います。

11月8日に約20人の方が出て作業に当たりました。



黒岩の舟場の看板もこの事業で立てました。二子にも同じような看板がありますが、その黒岩版

として案内板を設置しました。



（北原先生からのコメント）

見て驚いたのが、自転車道というかたちで北上川沿いのつながりをもつという計画ができていくという話で、だからこそ今のような活動がないとせっかくの自転車で楽しむ時間を、見た目も含めて100%楽しめないということもあるので、これからそういう活動をしていくと、フェンスなんかも気になる発想になっていくんだろうなと思います。

まずは河川敷、自転車に乗る人は舗装された所から、ピュッと川の方へ降りてきて楽しみたいというのもあると思います。

いろいろな使い方があるような気がするので、自転車道沿いの景観整備をやっていращやるということで、エンドレスだと思うので、大変でしょうねというのが一番の感想ですが、僕も黒岩小学校にいったおかげでお滝さんを見ましたが、展勝地までつながる川沿いの景観というのは北上の財産なので、地域の方々がその隙間に入るようなものを整備していくというのがすごく大事だと改めて思いました。

こういう活動があつて初めて、自転車道も映えてくると思います。大変でしょうが、頑張っ続けていってほしいです。

○沢目公民館

私たちが取り組んだ所は、県道北上一花巻線の一番北側の、県道と市道がぶつかる所に小さな森があります。そこを修景しようということで取り組みました。

ここの地主さんは高齢になっており、植林してそのまま、木の高さが20mを超えており、沢目

地域で唯一のメイン道路なのですが、夜に子どもたちや女性が歩くのに気持ちが悪いという話があり、何とか修景しようという気持ちでした。



また、石碑が北上市の史跡マップに載っており、地区外からも時々、訪ねて来られる方もありました。地元の方でもそんなものがあつたのかという所を何とかしようということで、自分達で出来る範囲で取り組みました。

取り組みは、公民館に所属する世帯 49 世帯から必ず一人は出てくださいということで、11 月から今も継続中ですが、毎週日曜日、頑張っています。



まだ完成していませんが、小さいところで人がまとまって入れないのですが、この上が神社になっていますが、その下から全部下刈りをしました。



また、木を切る前に木の上に登り、枝落としをしようということで、枝落としをしました。作業前に危険を伴うので、伐採まで自分達でやろうということで安全に注意して作業してくださいということで、毎回、ミーティングしまして作業しました。



間伐した木を引っ張り出して整備しなくてはならないので、重機を持ってきた引っ張り出しました。



間伐を進めて、だいぶすっきりしましたし、何しろ植林してから 40 年ぐらいそのままになっていたところで、しかも植林の幅が近いところで 1 m くらいしかないところだったので、素人集団で非常に危険を伴う作業でしたが、よく頑張ったなあと思います。

間伐した木を、すぐ近くのごみステーションの囲いに有効利用しようということで、木の皮をはいで周りにログハウス風に立てたらというアドバイスもあったので、材料をつくりました。ごみステーションに全部立てかける作業までは行いました。作業は全部。若い人に任せて「まず、やってみろ。カッコ悪かったらやり直そう」ということでとりあえず、立てた状況です。それから、丸太の半面を落としてあるのですが、あとで案内

板、記念碑にしようということでつくって、今 2 本作りました。お金がないので、自分達で書き入れようということで今取り組んでいます。



史跡の石碑の基礎を作って建て直すというところは業者に依頼していますが、今、進んでいるのはここまでです。

また、材料が余っているのので、ここに参加なさっている方で記念碑をつくりたい方がもしあれば、原価でお譲りしますので、有効利用していただければ幸いです。

(北原先生からのコメント)

自分達で何とかしようと言っている割には木の上に登ったり、重機を使ったり、プロの技をやっていらっしゃって、そういう能力がある人含めて、これまでの活動を自分達アマチュアでやったとしても相当手をかけてやっていらっしゃるなというのが最初の印象です。

それから、とりあえず作ってみよう、かつこ悪かったら作り直そうというのがすごく大事だと思います。

こういう活動をしていくと、せっかくやったけれど、できたものが今一つだなあとか言う人がいるのですが、当然であって、景観というのは止まっているわけではないですから、次やる時は木の貼り方や色を考えてみようとか、少しずつあるいは目の肥えた人がだんだん直していけばいいのであって、その第一歩としてとった木を使ってこういうものを作ってみようという活動は、おまけというよりはここからが大事なのかなという気がします。

それから、余った木があるのでお譲りしますと言うのかと思ったら、売るような話をしていたので、そういうしたたかさに感心しました。ぜひ、

そのしたたかさをもち続けてほしいと思います。ありがとうございました。

(発表の様子)



Ⅲ. 講座①「次年度の景観づくりにむけて」

発表の後には、今回の事業に関して、成果と課題のふりかえりを行い、次年度以降に実施する内容について検討する実習を行いました。

この実習はグループワーク形式で実施し、それぞれの助成対象団体と、一般参加者、弘前大学北原ゼミの学生がいっしょになり、ワーキングを行いました。

最後は、弘前大学の学生がそれぞれのグループを代表し、次年度に行うことを発表しました。

<ふりかえりの質問項目>

- ①計画通りによかったこと
- ②思いかけないよかったこと
- ③もう少し工夫すればよかったこと
- ④もうちょっとやりたかったこと
- ⑤せつかくつかった景観を守るためにしなければならぬこと

<グループワークの様子>



<発表：次年度の景観づくりにむけて>

○特定非営利活動法人芸術工房

多くの人に関心を持ってもらい、製作に参加してもらえるようアピールをしたい！！

今年、オブジェを作る際に学生さんに発想をいただくために依頼をしていたのですが、インフルエンザにかかってしまい来られなかったということで、芸術工房で案を考えオブジェを作ったのですが、その際にもっといろいろな人にオブジェを作ってもらい、今は見ているだけで満足する形なのですが、実際につくる過程にも参加していただいたらもっと活発になるので、参加していただきたいという強い気持ちがあります。



○二子町振興協議会

反応が良ければ、同じようなバス停待合所を増やしていきたいです。

バスが来ないときにも住民のよりどころ、人が集まる憩いの場が増えればいいということでこの結論に至りました。

○稲瀬町自治協議会

桜並木を未来へつなぐ稲瀬景観づくり事業を継続して、珊瑚橋から国見橋まで桜並木を拡大したいです。そのためにボランティアを増やして事業費の確保を何とかしたいです。

○黒岩宿公民館

今回整備した場所が、大雨のときに冠水してしまい、上流から流木やゴミが流れてきてしまい、溜まってしまうので、上流まで活動範囲を広げたいです。また、整備した地区の使い道がまだちゃんと決まっていないので、活動に参加している皆さんで将来の使い道について話し合っ、活動のモチベーションを高めたいと思います。



○岩崎城内会

川が川岸から深くなって、ブッシュだと思っていたら、落ちてしまったということだったので、水辺・川岸の整備をして浅瀬をつくって、昔のように子供達が川遊びができるようにしていきたいです。

○（NPO）くちない・口内町自治協議会

MAP作りの作成人数拡大を目標にします。現在の30人から、夢は大きく1,000人まで増やそうということです。おもに幼稚園生や小学生を全員巻き込んでいきたいです。

もう一つは継続計画を3月31日までにということです。

○沢目公民館

今年、取り組んだ所を維持管理していきたいです。やった場所の沢を挟んだ向かい側にも山があるので、そこからの眺望が美しいので、眺望地点の景観づくりもやっていきたいということでした。

○長沼一区・二区自治会

活動することで、不法投棄が多いことがわかったので、ゴミを投げさせない環境づくりのために自分達だけでなく地域に呼びかける、紹介、PR、広報の仕方をどうするかを次にやっていきたいです。後継者づくりのために若い人に向けてどのようにアピールしたらいいか。特に、活動する人が決まってしまうというのが今一番問題であるということが話されており、どのように新しい人を入れていくか、集め方、仕掛けのアドバイスが欲しいと思います。

子どもたちや若い人に向けて、なぜ河川敷をき

れいにするのか、という問題意識も人によって異なるので、その問題意識をどのようにして継続させるかも次に向けて考えていきたいです。

○立花自治振興協議会

今年度中に建物が完成するので、来年は内装を完成することを目標としたい。内装の具体的な目標は、実際に地区の人がバス停を使うことによって、椅子がもう少し必要であるとか地域の情報をバス停の中で見られるように随時展示していつて、皆さんの使い心地を聞きながら随時、使い心地のいいバス停にしていきたいということでした。



また、今年の春に桜まつりの時期に、立花茶屋をやったら評判が良かったそうなので、来年度も立花茶屋を開設するということでした。桜まつり以外にも野球の試合などでもやりたいということでした。立花茶屋という名前は仮で使っているのですが、よし親しみやすいネーミングにしたいということだったので、ネーミングを工夫したいです。

IV. 講座②

「景観づくりに向けたアドバイス」

北原 啓司 氏

（弘前大学教育学部教授）

今日は学生たちを参加させていただきありがとうございました。こういう経験はなかなかないので、感謝しています。

今、参加している学生たちが一番感じていることだと思うのですが、こういう修景事業のような

ものを各地域で活動して発表し合う機会を弘前で見たことがないのです。

青森県内ではこういう活動をやって、まちがお金を出して、地域で様々な継続的な活動を支援することができているところは、私はそんなに知りません。

そういう意味でいうと、みなさんがこういった活動をして、今日のような日曜日に集まって発表会をしていること自体、自信を持っていただきたいです。そういうことができている状況はそんなにはないので、お金が出る出ないに関係なく、こういう活動はやっていかなければならないのかもしれないですが、同じようなことをしている他の人たちの活動を聞いて、「よし！」みたいな機会をもっていらっしゃるのは、弘前の人間から見ると羨ましいというか嫉妬を感じます。

そういう場にうちの学生が出られたことがよかった、感謝の気持ちです。そのことをもっと考えてしっかりと自信を持ってやっていただきたいと思います。



それからもう一つは、自信を持ってやっていくと、こういう作業はエンドレス、終わりがありません。終わりが無いというのは、なかなかゴールにいかないというのではなく、人間というのは欲張りです、やり始めてやっていくとどんどん次の目標、自らハードルを上げてしまうので終わりません。

ですから、はまってしまうと終わりのない話であって、しかし、欲張りな気持ちがないと景観というのは続かないような気がします。ここまでやったのなら、次はこれをやろうと続いていくことを覚悟してやっていただきたいと思います。そういう覚悟が大事で、途中で中途半端にやめるくらいなら最初からやらない方がいいという話もある

り、大変だなと思いつつも来年こんなことやってみたい、こんなことやってみようという気持ちでやっていって、次の世代へとつながっていくというのが見てみたいと思います。

今日、参加させていただき、それぞれの活動を聞いて、ある意味、びっくりするというか僕自身が勉強になりました。

育てて、つなげていくというようなことがどの地域にも必要なので、こういう支援事業は予算には限りがあるし、しかししっかりと続けていくことを期待したいと思います。

それから、これは逆に市役所サイドにお願いをするのですが、さっき、消防署に言わなかったから後で大目玉をくらったとか廃棄する場所がないとか、そういうところの支援や情報は、やるたびにこういう手続きをしようとか、地域の人が迷わないように、本当に自分達がやりたいことをやるために側面支援するような動きがないとできないと思います。

今はこういうかたちでやっていますが、事業がなくなっても皆さんの活動は続いていきます。そういうときに相談に乗ってあげられるような人たちがいないと、皆が困っちゃうので、そういう意味での事業が終わった後でも、皆がやっている活動をサポートしたり、間でたまにはこういった活動発表会をする機会を例えば、NET-サポートがやるとかそういうものになっていくことを期待したいと思います。

今は、事業費が付いているのである程度はできますが、付かなくなった時こそ大事なのかなと思います。終わり方のようなものを、みなさんが提案してくれている間につなげていただくとまた、学生たちと見に来たいなという気がします。何年後かはわかりませんが、学生たちも後輩たちを連れてこういう場に来られることを期待して、今日の僕の感想にします。おつかれさまでした。

V. 閉会

＜ふりかえりカードから＞

○発表するだけでなく、弘前大学の学生さんと共有できたこと、大変有意義でした。今後共、こういう場欲しいです。

○自分達の活動だけでなく、他の地域の活動状況や問題点、これからの課題などを知る機会を得られたことがとても良かったと思いました。また、どの地域にも共通していえることは、たくさんの人達に活動に興味を持ってもらい、参加して欲しいということだと知りました。この点を何か手段を持ってアピールできたら良いなと感じました。

○他地区での活動内容は参考になった。

○各地区の修景実験の様子をお互いに共有し、そして、次のステップについて話し合うことは大変、有効となりました。行政も少ない金で市民のやる気を出す大きな効果を生み出されるものと思う。

○学生（弘大生）の若い感性に刺激を受けました。視点が斬新です。

○修景実験の結果報告ということでしたが、多種多様ないろいろなやり方があるということであらためて実感しました。また、それぞれの工夫を共有できたということは地域に帰って、かなり役立つことと思います。この活動を継続されることを望みます。（北上市として）

○事業実行に伴う諸問題の解決策を他団体の報告の中から学ぶことができた。

○今日、ボランティア事業等にて特定地区の活動状況を発表して頂いた訳ですが、この他の地区のこともあるかと思いますが、現地区の方もステップアップとして次年度、これからも種々の事を作定しているかと思いますが。本日は先程の事を聞いて、自分の目線のなさが少ないのではないかと我ながらとまどっているのがなさけないと思って居る次第です。今後、いろいろな点でレベルを上げようと思いがんばるつもりです。よろしく。

○景観の向上は人の意識の向上によってできていく…ということがわかったように思います。

○来年度の事業費をどう確保出来るか。

○インフラ整備2件その他の自然景観育成が多くを占めた。インフラはどうかと思う。もっと別な観点で良かったのではないかと。

○大変良かった。この活動の市民へのPRが必要。学生諸君に感謝。

○他の地区の活動取り組み状況が分かってよかったです。学生さんのインタビューを受けることで今後の活動計画を立てる参考になりました。

○今後の事業活動において有意義な内容であったし、地域の活性化にもつながったと思います。これからも継続することが重要である。

○景観資源の価値は様々な観点から、それぞれの地区を評価していかないといけないということ。

○活動報告は殆んどが協働事業であった。二子は無を有にする構築物であり、みんなにどう受け入れられるか心配であったが、理解を得られ嬉しかった。ジーちゃん、バーちゃんのかん高い声が聞こえることを念じ、完成させたい。

○活動報告に対する感想

- ・印象に残ったもの 「くちない地区」「岩崎城内会」
- ・活動の継続は極めて困難と思われた。要すれば自転車ロードのような事業については後での管理方法を十分に集約、合意して施行に入るルールを確立すべきと考えました。
- ・学生さん、御苦労さんでした。

○各地区で景観修景事業に取り組みしていることがわかり、私たちも今後の活動の参考になりました。

○事例発表するような内容ではなかったが活動の継続、後継者の育成が課題。

○市内他地区の現状の取組方、問題点が解って良かったと思います。学生さんを交えた意見交換も良かった。

○各地でそれぞれ特長ある景観資源を見つけて、復元する作業を進めていることに興味した。この制度に明るさが見えてきた。

○他の地区の活動を見て聞いて、うらやましいなと思うこと多々、どこの地区も人作りの大変さがわかった。学生さんたちとのふれあいは区長、公民館長にとってとてもシグキになったと思う。

○景観をどうにかしたいという思いやその場所は地区によっても様々あり、それを今回知ること自分達の地区でも活かせる、参考になることがあったと思う。

思わぬ形で弘前大学の後輩に会う機会を得ることができて、懐かしい話もできました。

○口内町自治協議会の大学生との連携によるマップづくりに興味を持ちました。その土地を詳しく知る人と知らない人が一緒に歩くことで、その町の良さを再認識することができると思うので、これからもずっと続けて行けばいいなあと思いました。本当に楽しかったです。ありがとうございました。

○普段は話す機会のない方々と話すことができてとても良い経験になりました。計画をつくる上で、実行する上で大変なことやよかったことなども細かく聞くことができて大変興味深かったです。

○地域での活動が活発だと思いました。実際にまちづくり活動に参加している方のお話をきける事は大変勉強になります。今後も活動を継続していただきたいと思いました。

○北上の方の町の景観をもっとどうにかしたいこうという前向きな姿勢に驚かされました。それぞれの地区が自分達の地区のいい所、悪い所を分かっている、いいところは伸ばし、良くないところは直していこうという気持ちも今日の講座を受けて伝わってきました。

○地域の人たちがとても意欲的で、自分の住んでいるところを何とかしたいという気持ちがとても伝わってきました。その作業自体も楽しんでやっている様子がとてもうらやましく感じられました。これからどうなっていくのか、とても楽しみにしています。私も自分のまちがこんなふうになっていけばいいなあと思いましたし、北上がもっとよくなればいいなあと思います。次の世代にどんどん伝わっていけばいいなあと思います。北上に来てよかったです。

○いろいろな地区の発表を聞いて、様々な視点で取り組んでいるのだと感じました。私は景観にはそれほど興味は無かったのだけれど、今日のこの時間で興味を持つことが出来ました。今日発表した計画を北上の人達にぜひ続けていって欲しいです。頑張ってください！

○実際に活動している方々の報告や感想など、リアルな声を聞くことができて勉強になりました。表からはなかなか見ることができない裏側をたくさん知ることができ、表では知ることができない苦労がたくさんあるとわかりました。とても勉強になりました。ありがとうございました。

○このような素晴らしい活動・取り組みをしているということを市民の人達に知ってもらいたいと強く思いました。「北上のまちをもっと良くしたい」とこんなに強く思っている人たちがいるということは、市民の人達に絶対に伝わると感じます。

○各地区で取り組んでいる事業を、それぞれに工夫しながら努力している姿に。北上の地域力を感じました。それぞれの地区の取り組みが繋がって、一つの北上市の景観になっていけば良いと感じました。

○それぞれの地区に、このような取り組みに積極的に参加している人たちがいるのを知り、驚き嬉しく思った。二子地区の人のお話を伺ったが、自分達が考えたバス停留所について自信を持っていたし、こうしたいという将来のビジョンがきちんと考えられていた。素敵だなと思いました。

○立花の方々にお話を伺って、とてもうれしくなりました。地域のバス停を、バスを待つだけでなく人々の交流の場にしたいという想いが強かったからです。みなさんとても協力的なので、素敵な空間ができると思います。

○地域のみなさんが熱い想いをもって景観をよくしたい！と動いていることがすごく伝わってきました。そして、そんな活動をしているみなさんがすごくうらやましかったです。想っていてもなかなか実際の行動にうつすことはできないけど、この事業を通じて地域の皆さんのきっかけづくりになって、さらにお話を聞いて、次につながっていく期待がもてました。頑張ってください！！

○北原先生が言ったように、各地域の方々の活動を発表し合うというのは、他の地域ではなかなか見られないので、とてもすばらしい活動だと思いました。修景実験ふりかえりシートでは、より活動の内容を伺うことができ、勉強になりました。今後もこれらの活動を継続してほしいと思いました。

○現在の活動を継続させていくことの大切さと難しさを実感しました。また、活動によって思いつかない良かったこと、自分達が気がつかなかった地域の良いところなどを改めて知ることができるのだなと思いました。

○たくさんの自治体が頑張っている姿を見て感動しました。一つの地区だけでなくたくさんのところで景観について考えられているのは他にはないなと思いました。頑張っていってほしいと思います。

○特別なイベントではなく、日常の中で感じる問題や違和感を日々の中で解決していくこの活動の大切さがまちづくりの原点かなと思いました。

<参考資料・ワークショップ成果「各助成団体における事業のふりかえり」>

○特定非営利活動法人芸術工房

- 計画通りによかったこと
 - ・オブジェそのものがイメージ通りにできた
- 思いかけないよかったこと
 - ・オブジェを見て、写真を撮ったりする人が多いこと
- もう少し工夫すればよかったこと・もうちょっとやりたかったこと
 - ・オブジェの角度を変えれば良かったかな。
 - ・学生たちの発想を取り入れられなくて残念だった。
 - ・学生たちに頼んだ時に、工房の方でも考えておけばよかった。
- せっかくつくった景観を守るためにしなければならないこと
 - ・エリアを広めて、参加者を増やす。→参加者が増えることによって守っていける。
 - ・見る側だけでなく、作る側にも参加してほしい。

○立花自治振興協議会

- 計画通りによかったこと
 - ・写真の通り、汚いものはなくなったので、とりあえずよかった。
- 思いかけないよかったこと
 - ・立花茶屋の実験をやったら、とても評判がよかった。

○長沼一区・二区自治会

- 計画通りによかったこと
 - ・人と人の関わりが深くなった。
 - ・自治会2つが一緒になって人と人が密に作業できた。(ますます)
 - ・平均年齢65歳以上の人たちが中心となって活動した
 - ・子供のころの景観・遊び場(みんなが行けるようにつくっていききたい!)
 - ・花を植えたことで、子供も集まるようになった。地域の人たちも評価している。
- 思いかけないよかったこと
 - ・あたらしい参加者が出てきた。
 - ・地域が良くなっていくことが、地域の人うれしい。
 - ・草取りは地域の人みんなで。花壇の水やりは中学生がやっている。
 - ・地域の人たちも道路まで各自で花を植えている。
 - ・不法投棄が見つかった。キレイにしておけばなくなるかもしれない。
- もう少し工夫すればよかったこと・もうちょっとやりたかったこと
 - ・日数が足りなかったため、計画の1/3しか達成できなかった。残りは来年、再来年。
 - ・世帯数が多く、動かしていくのが大変。活動する人が決まってしまうていく。→どのように人を入れていくか。
- せっかくつくった景観を守るためにしなければならないこと
 - ・キレイにすることでゴミを投げさせない環境。
 - ・地域に呼びかけることも必要。事前紹介、事後紹介することで、人も増えていくし知ってもらえることができる。
 - ・高齢化により継続が困難→後継者づくり

○岩崎城内会

- 計画通りによかったこと
 - ・曜日を設定した通りに来てくれた。町おこしのためなので、皆協力的だった。
 - ・景観が良くなった!木を揃えたことにより、川の形も見えるようになった。
 - ・天候がよかった。
- 思いかけないよかったこと
 - ・切った木がイスになった。素敵な休憩スペースになった。
 - ・きのこを見つけて、みんなで鍋にして食べた。
 - ・短期間でどこまでできるかわからなかったけれど、結果、川が見えるようになった。
- もう少し工夫すればよかったこと・もうちょっとやりたかったこと

- ・本当はイメージとして、フラットな状態がいいけれど、実際はぼこぼこになっている。川岸のほうから少し整備を始めていけば、浅瀬のようなものも作れたかもしれない。
- ・反省として、ゴミ処分の手続きができていなかった。
- せっかくつくった景観を守るためにしなければならないこと
 - ・継続させる。
 - ・地元に残ってくれる人、若い人にうまくつなげ、活動を続けていく。
 - ・これからは動植物の事も考えたい。

○口内町自治協議会 ○特定非営利活動法人くちない

- 計画通りによかったこと
 - ・地元のひとと岩手大学の人が一緒に歩くことによって、ねらいをうまく引き出せた。町の良さを再認識することができた。
- 思いかけないよかったこと
 - ・地元のひとが昔の写真の説明をするときに、満足そうな、嬉しそうな顔をしていたこと。
- もう少し工夫すればよかったこと・もうちょっとやりたかったこと
 - ・もう少し長い時間をかけてじっくりまち歩きをすれば良かった。
 - ・写真を集める期間が短かったので、数が少なかった。
 - ・スケジュールがギリギリだった。
- せっかくつくった景観を守るためにしなければならないこと
 - ・参加人員拡大（30人→1000人へ）

○二子町振興協議会

- 計画通りによかったこと
 - ・まず、やってよかった。
 - ・今までなかったものを新たに作り出すという他の地域と異なったものになったこと。
 - ・他グループの話、北原先生のアドバイスを聞けて良かった。
- 思いかけないよかったこと
 - ・子どもの絵や写真を飾る機会が増えればいい。
 - ・ローカルバスなので、バスが来ない時にも住民の寄り所、人の集まる憩いの場、ちょっとしたギャラリーにできればいい。
- もう少し工夫すればよかったこと・もうちょっとやりたかったこと
 - ・アドバイス通り、強化ガラス取り付け。後ろは木製（画鋸で貼り付けたりできるように）にし、上下は空けて、横には強化ガラス。コの字型に。
 - ・ベンチを木にすることであたたかさを出す。
- せっかくつくった景観を守るためにしなければならないこと
 - ・悪い意味でのたまり場になるという心配がある。青少年の喫煙、落書き。
→夕方にライトをつけたい。

○稲瀬町自治協議会

- 計画通りによかったこと
 - ・事業として一歩でも前に進んだこと
 - ・手入れしやすいほうの整備しかしておらず、もう一方の方は何も手入れしていなかった。桜並木は続いているのにもったいない！（70～80年の歴史）
 - ・整備され、イメージアップした。
 - ・県道から北上川が見えるようになった。ウォーキングコースを歩いている人から「北上川が見えるようになってきれいになった」という声が聞かれた。
 - ・参加者から「もうちょっとやりたかった」という声が聞かれた。
- 思いかけないよかったこと
 - ・前からやらなければ！とみんなが思っていたことなので、みんなのきっかけ作りになってよかった。
- もう少し工夫すればよかったこと・もうちょっとやりたかったこと
 - ・補助金があるからできたことだが、まだやりたい！
- せっかくつくった景観を守るためにしなければならないこと
 - ・枯死している木々は伐採して、新しい桜の苗を植える。せっかくだから、桜の時期にマラソン大会をやってはどうか？
 - ・事業を継続してもっと整備をしたい→ボランティアを増やしたい。

○黒岩宿公民館

- 計画通りによかったこと
 - ・10年近く簡単な整備をしてきたが、今回は重機を使い水路をつくることができた。
- 思いかけないよかったこと
 - ・看板を作る等の計画を出したことによって、昔の話題が出て、連帯感が強くなった。
- もう少し工夫すればよかったこと・もうちょっとやりたかったこと
 - ・大雨が降ると、今回整備した場所が浸水したりするので、流木やごみが溜まってしまう。
- せっかくつくった景観を守るためにしなければならないこと
 - ・流木やごみ対策として、上流の木の伐採、ごみ拾い等をしていきたい。
 - ・今回の活動を継続していく。・将来、どう活用していくか。

○沢目公民館

- 計画通りによかったこと
 - ・地区民がみんな良かったと言ってくれた。
 - ・景観が良くなった。
- 思いかけないよかったこと
 - ・間伐材が出てきたことにより、ごみステーションをつくることができた。
- もう少し工夫すればよかったこと・もうちょっとやりたかったこと
 - ・意思疎通、連携の方法をもう少し話し合っておくべきだった。
 - ・安全装備、思わぬ木の倒れ方
- せっかくつくった景観を守るためにしなければならないこと
 - ・地域住民間の協力　・地区での管理維持
 - ・桜公園までつながる林道、遊歩道の整備と、さらに見えるようにするために整備する